

政府放射線防護政策の骨格と成り立ち	説明と注意点
<h2>現在の日本政府の放射線防護政策</h2>	<p>ICRP（国際放射線防護委員会）の防護基準とリスクモデル及びIAEA（国際原子力機関＝国際的核産業推進機関）の安全基準に準拠</p>
<h2>ICRP（国際放射線防護委員会）</h2> <p>2009年勧告 2007年勧告 1990年勧告 1977年勧告</p>	<p>1977年勧告で「被曝被害問題」を経済・社会問題すり替えが明確に。（コスト・ベネフィット論導入）。90年勧告で実効線量概念（シーベルト）導入。一般市民や放射線従事者に対する被曝強制を事実上強める。2007年勧告で「チェルノブイリ事故」の教訓から、新たに「緊急被曝状況」を新設。苛酷事故の時はさらに被曝強制。「緊急被曝状況」が現在福島に適用されている。一言でいうと新たな勧告のたびに被曝が強制される勧告内容になっている。ICRPは「国際放射線被曝強制委員会」</p>
<h2>ICRPの放射線リスクモデルと“防護基準”</h2>	<p>特徴は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外部被曝には当てはまるリスクモデル。 2. 内部被曝には全く当てはまらない。 3. 内部被曝と外部被曝のリスクは等しい、と仮定。 4. 低線量被曝では疾病は“がん”のみと仮定。他の疾病は無視。『内部被曝と外部被曝のリスクは同じとする仮定』 <p>仮説のまま、一度も科学的に検証されたことはない。それどころか、核実験の放射性降下物調査研究では300倍の違い、またチェルノブイリ事故での低線量被曝調査研究では600倍の違いが示されるなど、この仮説を支持しない研究が夥しくあらわれている。また日本においても広島・長崎原爆被曝者『集団訴訟』における科学的弁論でも、内部被曝のリスクは外部被曝のリスクとは別に独立して存在したことが裏付けられた。（被曝者集団訴訟連戦連勝）</p>
<h2>広島・長崎原爆被曝生存者者寿命調査（いわゆるLSS）</h2> <p>1964年に第1報が公表され2012年までに合計14回公表されている。</p>	<p>1950年1月時点で生き残った広島・長崎に居住していたことが確認された被曝者の中から約9万4000人を選びかつ約2万7000人の市内“非被曝者”の合計約12万人を比較した疫学調査体系。</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部被曝線量のみが推定され、内部被曝線量は仮説。 ・基本的にγ線と中性子線のみが被曝線種であり、β線やα線による内部被曝無視。 ・外部被曝線量も確定データが存在しないため、線量推定体系（Dosimetry System-DS）を作らねばならなかった。マンキューソやスチュアートのハンフォード核工場労働者の被曝疫学調査との決定的違い。「マンキューソ研究」では工場労働者がフィルムバッジをつけていたため、被曝線量が全くの推定に依存しなくて済んだ。 ・その他さまざまな科学的疑念が提出されている（第30回広島2人デモチラシ参照のこと）が、すべて反論もなく無視されている。
<h2>広島・長崎原爆被曝者被曝線量推定体系（DS）</h2> <p>1957年 T57D（ほとんど無根拠に推定） 1965年 T65D（ICHIBANプロジェクト結果が根拠） 1987年 DS86 T65Dの矛盾を大幅修正 2002年 DS02 DS86の矛盾を微調整</p>	<p>広島・長崎原爆被曝者寿命調査（LSS）の疫学的調査としての科学的信頼性に関する弱点の一つは、被曝線量が確定できないことだった。そのため被曝線量推定体系を作らなければならなかった。最初にできたのが1957年のT57D（1957年の仮の被曝線量という意味）だったが、核実験などで集めた極めて根拠の薄い推定体系だった。このため、1960年代初頭から「BREN作戦」の一貫として「ICHBANプロジェクト」（日本語の“一番”が由来。一番大切なプロジェクトという意味）が実施され、爆心と距離や遮蔽物の関係から被曝線量を計測した。これがLSSで使用する被曝線量の根拠となっている。しかしT65Dでは中性子線の被曝線量とモデルに矛盾がでた。そのため大幅な手直しをして発表した推定体系がDS86である。さらにDS86でも細かな誤差が発生したため微調整する形で現在のDS02が成立した。しかしDSの体系は、中性子線とγ線のみを推定要素に入れており、基本的にβ線とα線の推定体系は今にいたるものない。これがLSS全体の内部被曝無視につながっている。</p>
<h2>『ICHIBANプロジェクト』（一番プロジェクト）</h2> <p>1962年1月 「CEX-62.01 技術的概念－ブレン作戦」公表 1964年3月 「CEX-64.3 Ichiban: The Dosimetry Program for Nuclear Survivors of Hiroshima and Nagasaki」（広島・長崎核生存者の線量推定計画）公表</p>	<p>DSの根拠となるデータ収集が目的。もともと当時アメリカ原子力委員会が行っていた「民間影響実験作戦」（Civil Effects Test Operation=CEX）の中の「ブレン作戦」（Operation Bren）の一部分を指す用語。“BREN”は「Bare Reactor Effects, Nevada」（ネバダ砂漠の裸の原子炉効果）の頭文字。ほぼ広島原爆の爆発高度にまでのタワー（約466m）を作ってむき出しの原子炉をつり下げ、燃料のコバルト60を核分裂させて、地上の各ポイントや日本家屋に似せた木造家屋内でγ線と中性子線の線量を計測した。内部被曝の決定的要因となるβ線やα線の線量は計測していない。この方法では内部被曝線量推定根拠を求めることはできない。1962年1月技術的概念が提出され1964年3月に結果が公表されている。（この報告は当時商務省から1冊50セントで販売されていた）</p>

